

## 解説 1 バチルス菌 *Bacillus*

p.7, 40

バチルス菌とは土壌や水中など自然界に普遍的に存在するグラム陽性菌であり、内生胞子を形成し、細胞形態が桿状（かんじょう）で、好気性または通性嫌気性の従属栄養細菌である。バチルス菌には、いろいろな産業用酵素（食品用、洗剤用など）の生産に用いられる枯草菌（*Bacillus subtilis*）や生物農薬に用いられる卒倒病菌（*Bacillus thuringiensis*）などがある。納豆菌は枯草菌の一種である。また、高温や低温、高 pH や低 pH、高塩濃度、高圧といったさまざまな極限環境に適応している種類も多数存在している。このように、バチルス菌には約 300 種類の性質の異なるものが存在していることが知られている。富士電機は、この中から排水処理に適したバチルス菌を発見し、排水処理システムに使用している。

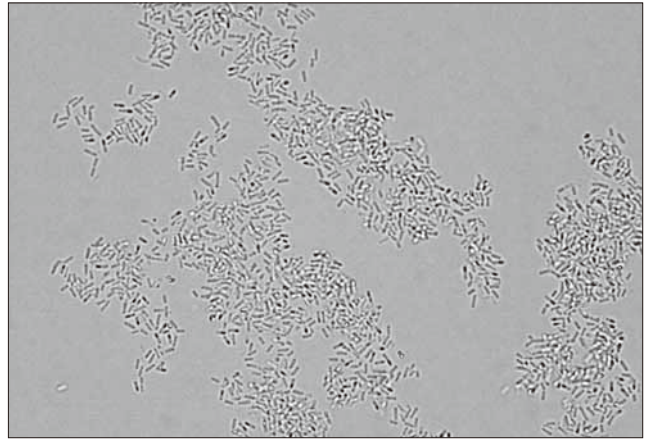


図 1 排水処理用バチルス菌





\*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する  
商標または登録商標である場合があります。